

表 2.3 クラック調査カルテ(クラック J7-5 その1)

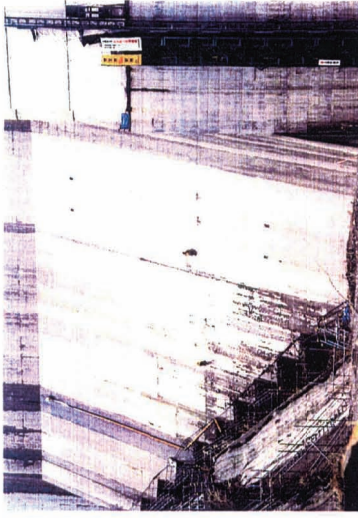
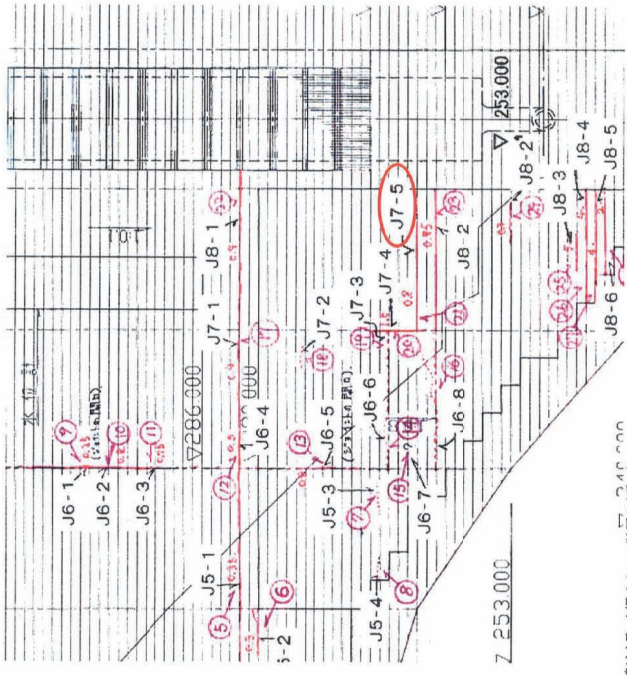

クラック 概要と 調査位 置	調査位置			上流面クラック調査結果		毎日充水試験結果		打継間隔		調査累積数量		ボーリング調査結果			水押試験結果			
	No.	BL No.	標高 ジョイントから 距離	クラック幅 mm(平均)	クラック長 m	試験実施 有無	漏水 有無	充水標高 ELm	日数	本数	ボーリング 延長m	クラック範囲 m	評価区分		縦目排水孔への漏水量(L/min)			
													A	B	C	止水板奥 ハタン4.7 0.2,5.8	止水板中央 ハタン1.3,6 0.2,0.20	止水板手前 ハタン 0.2,5.8
J7-5	①	8	263.00	0.40	12.00	—	—	—	95	3	1.09	0.92	0.92~1.09	0.31~0.92	0~0.31	—	0.00	
	②										2.93	2.63	2.63~2.93	0.25~2.63	0~0.25	J-8 0.20	0.00	
	③										1.07	0.99	0.99~1.07	0.32~0.99	0~0.32	—	0.00	
クラック状況写真 スケッチ																		
																		
<p>※ 1:波線はクラック幅 0.1mm 以下のクラック                  ※ 2:○番号は、巻末資料に示す調査写真番号を示す。</p>																		

表 2.4 クラック調査カルテ(クラック J7-5 その2)

水押し試験結果		水押しパターン																						
奥	中央	手前																						
<p>奥</p>	<p>中央</p>	<p>手前</p>																						
<p>調査孔</p> <p>横継側 (J7+1.0)</p>	<p>中央 (J7+4.25)</p>	<p>J7 センター (J7+7.5)</p>																						
<p>凡例: ■ 充水箇所 ■ バンカー設置箇所                  → 漏水確認箇所 → 継目排水孔の漏水確認                  クラック幅の計測</p>																								
クラック調査結果		ボアホールカメラ観察結果																						
<p>クラック区分①に相当し、打継間隔 95 日、クラック幅 0.5mm のクラックである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水膨張性の水平止水板が 8 列設置されている。</li> <li>クラック幅は 0.4mm、クラック長は 12m であった。</li> </ul>		<p>ボアホールカメラ観察結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>右岸側</th> <th>左岸側</th> <th>右岸側</th> <th>左岸側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J7-5</td> <td>①</td> <td>0.20</td> <td>0.10</td> <td>0.6~0.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③</td> <td>0.20</td> <td>0.20</td> <td>0.4~0.6</td> </tr> </tbody> </table>			No.	右岸側	左岸側	右岸側	左岸側	J7-5	①	0.20	0.10	0.6~0.8		②	0.20	0.20	無		③	0.20	0.20	0.4~0.6
No.	右岸側	左岸側	右岸側	左岸側																				
J7-5	①	0.20	0.10	0.6~0.8																				
	②	0.20	0.20	無																				
	③	0.20	0.20	0.4~0.6																				
<p>クラック範囲と漏水経路の推定</p> <p>クラック区分①に相当し、打継間隔 95 日、クラック幅 0.5mm のクラックである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水膨張性の水平止水板が 8 列設置されている。</li> <li>クラック幅は 0.4mm、クラック長は 12m であった。</li> </ul>		<p>モニタリング調査結果</p>																						
<p>ポーリング調査結果</p> <p>【平面配置】</p> <p>【断面配置】</p>		<p>クラック範囲と漏水経路の推定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラック区分①に相当し、打継間隔 95 日、クラック幅 0.5mm のクラックである。</li> <li>水膨張性の水平止水板が 8 列設置されている。</li> <li>クラック幅は 0.4mm、クラック長は 12m であった。</li> </ul> <p>ポーリング調査の結果から、J7 脇ではクラック深度が 0.92m と止水板よりも手前であったが、②孔では 2.63m と止水板より深い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③孔は、クラックが下層へ逃げたため、クラック全体の分布を取られることはできなかったが、3m 前後であると推測される。また、区分 C の範囲は表面から 30cm 程度であり止水板より手前である。</li> <li>①、②、③孔の水押し試験結果より、下層 (BL.262m) へリークしていることから、下層の進展範囲は 1m 程度と考えられる。</li> <li>水押し試験の結果から、いずれも止水板手前から充水したケースで継目排水孔からの漏水は認められず、止水板の効果が期待できる。</li> <li>止水板奥に充水したケースでは、継目排水孔 J8 から漏水が確認されているが、これは止水板が水道となっている可能性がある。</li> <li>ポーリング調査によると、③孔のクラックが下層に逃げていること、水押し試験でリフト下層からのリークが認められたことから、クラックは止水板を避けて下層へ進展し、漏水経路となっている可能性がある。</li> <li>なお、継目充水試験は実施していない。</li> </ul>																						